

第三者評価結果

事業所名：みなとみらいくばがさ保育園

A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
A-1-(1)-① 【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	a

<コメント>

・法人共通の全体的な計画では、事業の目的、保育理念（事業運営方針）、保育方針と目標に基づき編成されており、園においては、子どもの保育時間も考慮し、「長時間保育」の項目も取り入れている。全体的な計画の見直しは年度末の職員会議において行っている。
 ・各指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護と教育の各領域を考慮し、各クラスにて話し合いを行い作成している。毎月・期ごと・年間でクラスで話し合い評価を行っており、次の作成につなげるようにしている。

A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
A-1-(2)-① 【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a

<コメント>

・全クラスに加湿器・空気清浄機・冷暖房が完備され、快適に過ごせるよう整備しており、0歳児の保育室には床暖房も完備されている。また、全クラスに温度・湿度計を設置し、常時、室内の確認ができるようにし、適切な状態が保てるようにしている。
 ・室内の玩具・保育室の衛生面については常に消毒を行い、季節に応じた玩具や絵本、環境設定を行い、安全、安心して過ごせるような環境整備に努めている。危険箇所の点検や修繕が必要な場所については、全体で分担して定期的に点検を行い、担当者がまとめたものを全職員に周知し、改善に努めている。安全点検では、別のクラスを確認することで気づきが得られるように工夫をしている。
 ・手洗い場・トイレは年齢に合わせて装飾を行ったり、並ぶための目印を貼るなどの工夫を行っている。

A-1-(2)-② 【A3】 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a
---	---

<コメント>

・乳児指導計画では、個々の成長過程を考慮し全体で把握した上で、個々に応じた関わりができるようにしている。また、個別月案を作成し、一人ひとりのねらいに沿った援助ができるようにしている。各クラスで行っている個々への対応や関わり方を職員会議などで全体に周知し、統一した援助によって安心して気持ちを表現できるように取り組んでいる。
 ・家庭環境や子どもの様子が気になるときは、個別に面談をする機会を設け、園だけでなく行政と連携をとり、家庭や子どもたちのサポートを行っている。
 ・不適切な保育を行わないよう職員ハンドブックを用いて園内研修などを行い、子ども主体の保育ができるように心がけている。また、職員ハンドブックは全職員に渡しているため、自身でいつでも見直しできるようにしている。

A-1-(2)-③ 【A4】 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。	a
---	---

<コメント>

・一人ひとりの発達段階に合わせて、援助や見守りを行い子どもの主体性を尊重していくよう配慮している。クラスによって、ズボンの着脱の際は他の子が行っている姿を見てやる気につながるよう環境を整えたり、少しでもできたことをほめて自信へにつながるよう関わっている。また、本児の意欲を大切にすため援助する時もさりげなく行い、一人でできた満足感を得られるように関わっている。
 ・年度初めの懇談会では、子どもの発達や保育のねらいについて伝え、「クラスだより」の内容に、今取り組んでいること（身のまわりのことなど）を記載し、保育園での姿とその際の関わり方も伝えて、無理強いすることなく園と家庭で一緒に生活習慣を習得できるように取り組んでいる。

<p>【A5】 A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p>	a
<コメント>	
<ul style="list-style-type: none"> ・保育室内では自主的・自発的に遊ぶことができるように、玩具・絵本は自由に取り出せる高さに設置し遊びのコーナーづくりをするなど、年齢や発達に応じて環境作りの工夫をしている。 ・戸外遊びの時間を取り入れ、近隣の広い公園へ出かけ思いきり身体を動かして遊べるようにしており、どんぐり・松ぼっくりを拾いに行ったり、桜を見に行ったりと季節に合った自然に触れる機会も作っている。夕方にも散歩に出かけ、点灯したクリスマスツリーを見て楽しむなどの工夫もしている。 ・都心であるため近隣住民との交流は見られないが、交番や駐車場警備員と日常的に挨拶を交わしている。また、テナントからSDGsをテーマにした作品作成の依頼があり、4、5歳児がはじめての合同作品づくりを体験し、その作品はテナント玄関に飾られている。英語、珠算、体操、ITなどの活動では外部講師が来園し、子どもが職員以外と交流の機会を持つことができている。 	
<p>【A6】 A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<コメント>	
<ul style="list-style-type: none"> ・入園当初は、保護者の就労状況に合わせて慣らし保育を行っており、子どもと保護者の不安やストレスが軽減されるように取り組んでいる。保育者を安心できる存在と思ってもらえるよう、日々あたたかな関わりを心がけ信頼関係を築くことができるよう努めている。室内は、遊びと生活(食事)のスペースをわけ、落ち着いて過ごせるようにしている。子どもの成長に合わせた手作りおもちゃを多く準備し保育に取り入れ、玩具や絵本は発達に応じて入れ替えを行うようにしている。 ・家庭とは、日々の子どもの成長をその都度伝えて共有できるようにしている。コロナ禍においては登降園時の送迎は玄関対応としているが、連絡ノートや写真・動画配信、ブログ等のSNSツールを活かして、子どもたちの保育園での様子が保護者の方にわかりやすく伝えるように工夫している。 	
<p>【A7】 A-1-(2)-⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<コメント>	
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの目線に合わせた場所に玩具を用意し、自ら手を出し活動したくなるような意欲が湧く環境設定を心がけている。年齢に合った玩具や保育室内の配置を考慮し、月齢による遊び方の差なども受け入れながら玩具の設置を工夫している。保護者と離れて保育園で過ごすことに心身の不安感を持たないように、スキンシップや言葉かけを通して安心した生活が行えるよう関わっている。 ・2、3歳児は同室で保育を行っており、子どもたちが過ごしやすいように防災マットを置いて座って遊べるようにしたり、玩具は片づけしやすいよう写真を貼るなどの工夫をしている。 ・子ども同士の関わりが増えてくる時期であるため、かみつきなど子どもの発達段階で生じるトラブル等については、4月懇談会にてその対応などについて伝えている。できる限り防ぐように見守りに努めているが、かみつき等が見られた場合は状況を記録し見直すことができるようにチェック表を作成している。また、言葉でうまく伝えられない場合は代弁し、子どもの気持ちに寄り添うように努めている。 	
<p>【A8】 A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<コメント>	
<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児からは単数担任となるため、子どもたちが不安にならないよう、数か月前に単数担任に慣れていける環境を整えたり、年度当初は担任以外に職員を配置するなどの配慮をしている。子どもの興味・関心を受け止め、それを題材にした遊びや製作を取り入れるようにしている。 ・4歳児では、子どもたちが集団で関わる遊びを提案し、それを楽しめるように保育者が見守り援助している。それぞれの意見を出す事を見守りつつ、一人だけの意見にならないように保育者が色々な子どもたちの意見をまとめる働きかけをしている。 ・5歳児では友だちの良いところなどを保育者が積極的に発表するなどし、友だちを認められる機会を作り、協力する大切さを伝えるために、子ども同士で考え意見を出す場を作るなどの働きかけをしている。 ・毎月写真の配信や、動画の配信で子どもたちの成長や、取り組みを保護者に伝えている。近隣の小学校からは毎週学級だよりが送られてきて、小学校の様子を感じることができている。4、5歳児クラスが1室を使用しているため、各クラスが活動しやすく、子どもたちが安心して過ごしていけるようにサークル活動や生活導線を工夫する等配慮している。 	
<p>【A9】 A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	b
<コメント>	
<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの目標を基準とし、対象となる園児ができる事を考え、期ごとに個人的な目標と支援計画を立て保育を行うようにしている。園生活で変わったことがあればその都度、記録して支援の方法を考えられるようにしている。また、子ども同士のトラブルでは、保育者が仲立ちし、本児がクラスに溶け込めるようにし、その時の様子により、保護者と面談をしたり、連絡帳のやり取りで共有している。 ・療養センターの職員に、様子を見てもらい助言をもらう機会や、民間の療育現場からも要望に応じ様子を見てもらい、支援に活かすように努めている。また、研修に参加した職員が研修報告を行ったり、園内研修で理解を深めるようにしているが、全職員の理解に向けては継続的な取り組みとしている。 ・対象児の保護者に関して、希望者には相談機関の情報を伝えるようにしているが、全保護者への機関の周知は今後の課題としている。 	

<p>【A10】 A-1-(2)-⑨ それぞれの子ども在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
---	---

<コメント>

・朝夕など乳児・幼児が合同で過ごし、日中は幼児クラスと一緒に散歩に行くなど、一緒に過ごせる環境を提供している。異年齢児が同じ空間の中で過ごすことを配慮し、コーナーを作りながら安全に遊びに集中できるような環境作りを行っている。人数が少なくなり寂しくならないように、好きな遊びを提供して密に関わり、楽しく過ごせるように配慮している。

・保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っており、18:30以降のお迎えでは、希望により軽食・夕食の提供を可能としている。また、18:30には食事希望がない場合も麦茶の提供を行い水分補給をしている。

・各クラスに伝達ボードを作成し、全保育者が閲覧できるようになっており、健康状態についてなどを記入した上で、口頭でも保護者に伝えるようにしている。体調不良や怪我が起きた際には、保護者にすぐ連絡が取れるように優先順位を決めた電話連絡の書式があり、どの職員でも一目で分かるようにしている。

<p>【A11】 A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	b
--	---

<コメント>

・定期的に小学校との交流を行う予定であったが、コロナ禍のため、感染対策をしっかりと行い、今年度は数回実施することができた。小学校から送られてくる動画や手紙を見せたり、小学校での生活の流れを伝えて、そのためにどうするかを考える時間を設け、小学校での生活に見通しを持てるように援助している。また、生活の流れにおいても年長児クラスでは小学校を意識して午睡をなくすなど、計画的に進めている。コロナ禍における小学校との交流については、継続的な課題としている。

・小学校教員と意見交換や合同研修などリモートで参加することはあるので活かしていきたいが、できることは限られてしまうので、今後は小学校や関係者を含めて考えていく必要がある。

A-1-(3) 健康管理	第三者評価結果
--------------	---------

<p>【A12】 A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。</p>	a
---	---

<コメント>

・子どもの健康状態を確認した上で受け入れており、受け入れ時や電話連絡など、個別に対応した場合には、連絡ノートで全体に周知し、定期的に行う会議においても子どもの健康に関する情報共有に努めている。けがをした際、現場の職員が必ず状況報告とけがの様子を伝え、謝罪し、その時の対応やその後の様子を話している。また、家庭でもその後変わりがないか様子を見てもらうように伝え、翌日は家庭での様子を聞き、謝罪と今後の対応について話している。

・感染症によっては医師の意見書、保護者の同意書を提出してもらっている。また、感染症により園側でもできることを保護者同意のもと行うこともある。

・SIDSチェックについては全職員にその内容を周知しており、室内には湿度、温度計等を配置し、常に室内の環境、子どもの様子を見守るようにしている。また、習慣的にしっかりと行っているか、クラスでやり方を再確認している。

・保護者に対しては行政やニュースなどであげられている内容を情報提供し、園の取り組み等も保護者会やアプリにてお知らせしている。

<p>【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。</p>	b
--	---

<コメント>

・月1回の身体測定と年2回の歯科・内科検診を実施しており、結果はその場で記録し、その日のうちに担任が確認している。また、いつでも職員が確認できるように、ファイルに閉じて定位置に保管している。予防接種は家庭から事前に知らせてもらい、その後の子どもの様子を確認しており、予防接種の内容は健康台帳にその都度明記している。

・毎月の身体測定を行い、結果をノートに全学年分記録して、その日のうちに保護者にも伝えている。健診が受けられなかった園児に関しては保護者にかかりつけ医または、嘱託医に受診してもらうよう伝え、受診の有無を担任が追い、漏れのないように確認している。

・健康についてはクラスで話をしたり、子どもたちが自分の成長を感じられるような声かけを行っているが、年齢に合わせた保健指導を行うことも必要とされる。

<p>【A14】 A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。</p>	b
---	---

<コメント>

・アレルギー疾患のある子どもに対して、「アレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。アレルギー専用トレーに名前と除去食を記入した札をつけて、専用の食器で提供しており、各自のファイルにチェックをし、提供した日、人を記録している。食事を調理室から運ぶ際は、調理職員、保育職員の声かけを行って間違いのないように努めている。

・アレルギー児に対しては、専用の台ふきん床ふきんを使用、食事をする配置もどの職員が見ても分かりやすいように、テープ等で示している。また、使用したアレルギー用タオルはアレルギー用のみで洗濯し、細かく分けてどの場面においても混ざらないようにしている。

・アレルギー児についての特記事項や負荷検査の状況等は理解しているが、具体的な理解を深めるため、アレルギー症状が急に出来た場合の対処法等について、定期的に職員研修を行うことが必要であり課題としている。

・食物アレルギー以外のアレルギーをにも配慮しており、関連の強い生活場面や個別の症状について把握し、適切な対応ができるよう保育者間で共有し連携が取れるように努めている。

A-1-(4) 食事	第三者評価結果
<p>【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。</p>	a
<コメント>	
<p>・食育を通して、子どもたちが食材等を身近に感じ、興味を持ち楽しく食べることができるように取り組んでおり、年間食育計画に基づき、毎月のねらいに沿って食育を進めている。給食以外の時間でどうしたらより食育に触れられるかを考え、食に関する絵本の読み聞かせや野菜や果物等をスタンプにして製作に取り入れている。</p> <p>・食具の使い方も年齢別で分けて使用しており、箸を使えるように日常の保育で遊びに取り入れ、家庭と園での様子を伝え合いながら少しずつ移行できるようにしている。また、年齢によって、食材の大きさを配慮したり、食具の使い方や機会なども年齢によって工夫をし提供している。また、子ども一人ひとりの量を見極めて、無理のないよう楽しみながら食事を進めている。</p> <p>・食事に対して興味が少なく、食べ進めるのが難しい時は、言葉のかけ方を工夫、食べやすい大きさにする、他の子が食べている姿を見せる等工夫している。家庭との連携も必要であるため、自宅での様子や園での様子を共有し、無理のないように進めるようにしている。コロナ禍の為、「給食試食会」は中止しているが、現在はクラスそれぞれの食事の様子を動画にして園の食事風景を伝えている。</p>	
<p>【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。</p>	a
<コメント>	
<p>・その日の体調によって、食事の量を調節するなどの配慮をしながら、無理なく食べられるようにしている。特に病欠した次の日等は、顔色や1日の様子も注意しながら家庭に伝えている。食事に対する集中の度合いや好き嫌いもあるが、子どもが少しでも頑張ろうとする姿が見られた時には、たくさん褒め、意欲が出るように援助している。</p> <p>・献立は、系列園の栄養士が順番に作成しており、季節感を大切に様々な食材や調理法を取り入れている。献立の内容は分かりやすく子どもたちに説明をしており、栄養士は食事の様子を見て子どもたちとのやり取りを通して、献立に反映できるようにしている。また、クラスごとに残食をまとめ、2週目の調理に生かすようにしている。季節の行事食や毎月の誕生日ケーキにも力を入れており、かわいらしい盛り付けや型抜きをしたり、果物を取り入れて見た目でも楽しさを感じてもらえるように工夫している。</p> <p>・調理室においては衛生管理が適切にできるようマニュアルに基づいて取り組んでいる。</p>	

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭と緊密な連携	第三者評価結果
<p>【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。</p>	b
<コメント>	
<p>・コロナ禍においては、登降園時の送迎は玄関対応となっているため、保護者と会話をする時間も限られており、家庭との緊密な連携については課題としている。</p> <p>・連絡帳ではその日に起きた嬉しい出来事や子どもの様子を伝えるように努めているほか、毎月クラスだよりを配信し、取り組みの様子を伝えている。また、懇談会や運営委員等においても、保育の意図や保育内容について伝えている。園での子どもの様子を伝える手段として「おうちえん」や写真配信をしているが、配信後は、担任が直接会える時に一言声をかけるなど、配信内容を共有する機会を作ることも検討している。</p>	

A-2-(2) 保護者等の支援	第三者評価結果
<p>【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。</p>	b
<コメント>	
<p>・コロナ禍においては、日々の連絡帳でのやりとりを中心に、保護者と連携に努めており、連絡帳の内容についての会話をもとに少しずつ信頼関係を構築して家庭での子育て相談などを行なうことができるよう取り組んでいる。</p> <p>・連絡帳を通して相談を受け、話の内容により登降園時に話をしたり、個別に時間を設けて個人面談を行なう場合もあり、また、お迎え時間や延長保育に対する相談にも応じて保護者支援に努めている。面談用のノートを使用し、前回の面談内容からつなげて面談を行っており、特記すべきことは会議にて全体共有をしている。保護者からの相談内容や希望に応じて、園長や主任が対応するなど適切な対応がとれるようにし、必要に応じて対応マニュアルを確認し活用できるようにしている。</p> <p>・コロナ禍のため今年度の保育参加は中止したが、保育中の子どもの様子や保育者との関わりを見てもらうため、感染状況を踏まえながら次年度の再開を目指している。</p>	

<p>【A19】 A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。</p>	a
<コメント>	
<p>・登園時には視診によって子どもの身体に傷や怪我がないかを確認し、休日の子どもの怪我についても保護者との連絡を取り合い確認できるようにしている。子どもの様子が普段と違う時は、連絡帳や登園・降園時に直接保護者に園での様子を伝え、保護者の変化にも目を向け、家庭での子ども様子など声をかけている。また、職員間でも共有し、その日の子どもの様子を園として把握していけるようにしている。</p> <p>・個人面談を年2回行い、保護者による家庭環境の聞き取りをし、家庭環境により子どもの様子に突然の変化（暴れる・よく寝るようになる）等は保健師との連携をとるなどの対応に努め、面談以外でも家庭と園での様子を共有していけるようにしている。</p> <p>・連絡帳の内容を共有したり、会議等で個別に聞いた話も把握に努め、支援の必要性について検討している。担任等が聞いた内容に対して園で共有後に、園長が関連機関とのやり取りを行う体制である。</p>	

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	第三者評価結果
<p>【A20】 A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。</p>	a
<コメント>	
<p>・月1回以上「クラス会議」を行い、日ごろの保育を振り返るようにしており、会議用ノートに記録してその内容を全職員が把握できるようにしている。月1回の職員会議では各クラスの情報を共有する事で、他クラスの園児の様子や家庭環境について知ることができ、関わる際の言葉がけや援助に活かすなど学びにつなげることができている。気になる子について様々な立場から意見を出し合ったり、気になる場面や状況を振り返ったりすることで、より良い環境で保育ができるよう取り組んでいる。</p> <p>・研修結果やその学び、実践した上で振り返りを職員会議で発表することで、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。担任保育士だけでなく、園長や主任、各リーダーと話すことで様々な観点から子どもの育ちについて見守っていけるようにしている。保育士が行った振り返りをもとに保育所全体の自己評価を行うことで素直な自己評価へと繋げている。</p> <p>・毎日の保育の中でた反省点や自己評価も、すぐに他職員と話すことができたり相談できる環境であり、日々保育の改善に向けて取り組んでいる。</p>	